



2014年度 紙パック回収率

2014年度の紙パック回収率は
44.7%でした。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2015年も6月～10月に実施され、2014年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2014年度の紙パック全体の回収率は44.7%（前年度比で0.1ポイント増）、使用済み紙パック回収率は35.7%（0.8ポイント増）となりました。

近年の使用済み紙パックの回収ルート多様化に伴い、2014年度も古紙原料問屋や再生紙メーカーによる直接回収を調査対象に加えました。これらの回収量はマテリアルフローの「集団回収等」に含めています。

※2014年度実態調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー307社・市町村1,734・小学校2,057・スーパーマーケット等1,032・市民団体および福祉施設611・再生紙メーカー31社等をアンケート調査対象に、また4カ所をヒアリング調査対象としました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※紙パック製造工程や飲料工場の飲料充填前に発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2014年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

44.7%

(2013年度 44.6%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=104.4千トン / 233.7千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

35.7%

(2013年度 34.9%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=71.1千トン / 199.3千トン

市町村回収や集団回収の
紙パック取引価格が
上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかないものを対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収（東京特別区の回収を含む）と集団回収の平均を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村や集団回収の取引価格は前年度よりも高値で取引されています。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2011	2012	2013	2014
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	7.1	6.8	7.0	6.9
		持込価格	7.5	6.7	6.5	7.0
	古紙原料問屋	引渡価格	9.4	9.2	8.3	9.0
		持込価格	8.7	8.2	8.4	9.3
集団回収	再生紙メーカー	引渡価格	10.8	9.4	6.4	8.6
		持込価格	10.3	10.9	9.0	12.0
	(取引先不問)	引渡価格	5.2	4.9	5.1	5.2
		持込価格	5.9	5.3	5.7	6.0

(円/kg)

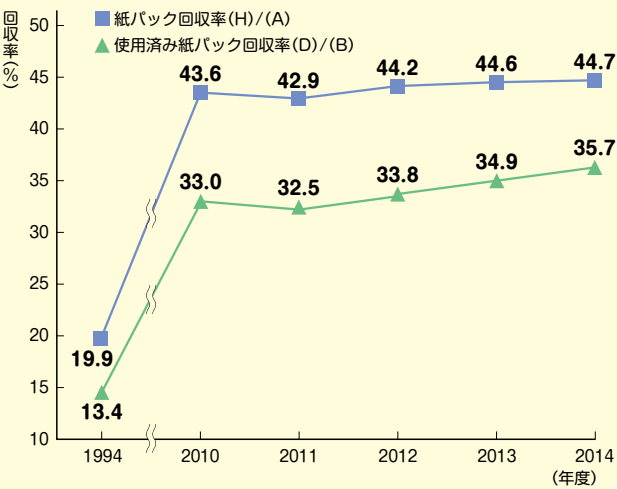
2014年度の紙パック回収量は
104.4千トンでした。

2014年度の国内紙パック回収量は損紙が減少したこともあり、前年度より1.9千トン(1.8%)減少し104.4千トンになりました。また、使用済み紙パック回収量は0.5千トン(0.7%)増加し71.1千トンでした。

この結果、右の図のように、紙パック回収率は2011年度こそ減少しましたが、2012年度から再び増加しています。とりわけ使用済み紙パックの回収率が増えています。

これまでの紙パック使用量や回収量などの推移は「主要データの推移」にまとめています。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (単位:千トン)

区 分		1994年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	対前年 増加率
飲料用紙パック原紙使用量(A)		216.0	246.8	246.6	242.9	238.2	233.7	-1.9%
紙パックメーカー産業損紙発生量		16.5	37.3	35.1	36.2	33.5	31.4	-6.5%
飲料メーカー産業損紙等発生量		—	2.1	3.3	2.4	2.4	2.2	-8.3%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)		197.9	207.3	208.3	204.3	202.1	199.3	-1.4%
家庭系(C)		168.7	184.6	184.8	180.3	178.5	176.2	-1.3%
事業系出荷量		29.2	22.6	23.5	24.0	23.6	23.1	-2.2%
学校給食		10.7	11.8	11.8	11.9	11.8	11.7	-0.9%
飲食店等		18.5	10.8	11.7	12.1	11.7	11.3	-3.5%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)		26.5	68.4	67.7	69.1	70.6	71.1	0.7%
家庭系(E)		25.9	56.6	56.2	57.2	59.4	60.4	1.7%
店頭回収量		13.8	33.6	33.0	32.6	32.3	31.9	-1.3%
市町村回収量		4.3	14.1	13.9	13.7	13.6	12.8	-5.9%
集団回収等量		7.8	8.9	9.3	10.9	13.5	15.7	16.3%
事業系(F)		0.6	11.8	11.5	11.9	11.2	10.7	-4.4%
学校給食		0.6	9.4	9.2	9.6	9.3	8.8	-5.0%
飲食店等		—	2.3	2.3	2.3	1.9	1.9	-1.4%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)		16.5	39.3	38.1	38.4	35.7	33.3	-6.7%
紙パックメーカー		16.5	37.3	35.1	36.2	33.5	31.4	-6.4%
飲料メーカー		—	1.9	3.0	2.2	2.2	1.9	-10.1%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)		43.0	107.6	105.7	107.5	106.3	104.4	-1.8%
紙パック古紙輸入量		—	12.7	14.0	11.4	12.8	18.6	45.6%
紙パック総受入量		43.0	120.3	119.7	118.8	119.1	123.0	3.3%
紙パック再資源化量		30.1	96.3	95.7	95.2	93.7	95.4	1.8%
回 収 率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	43.6%	42.9%	44.2%	44.6%	44.7%	0.1ポイント
	使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	33.0%	32.5%	33.8%	34.9%	35.7%	0.8ポイント
	家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	30.6%	30.4%	31.7%	33.3%	34.3%	1.0ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケートに基づいて求めています。

※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行ったことで、他の項目の値も一部影響を受けています。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2014年度 紙パックマテリアルフロー

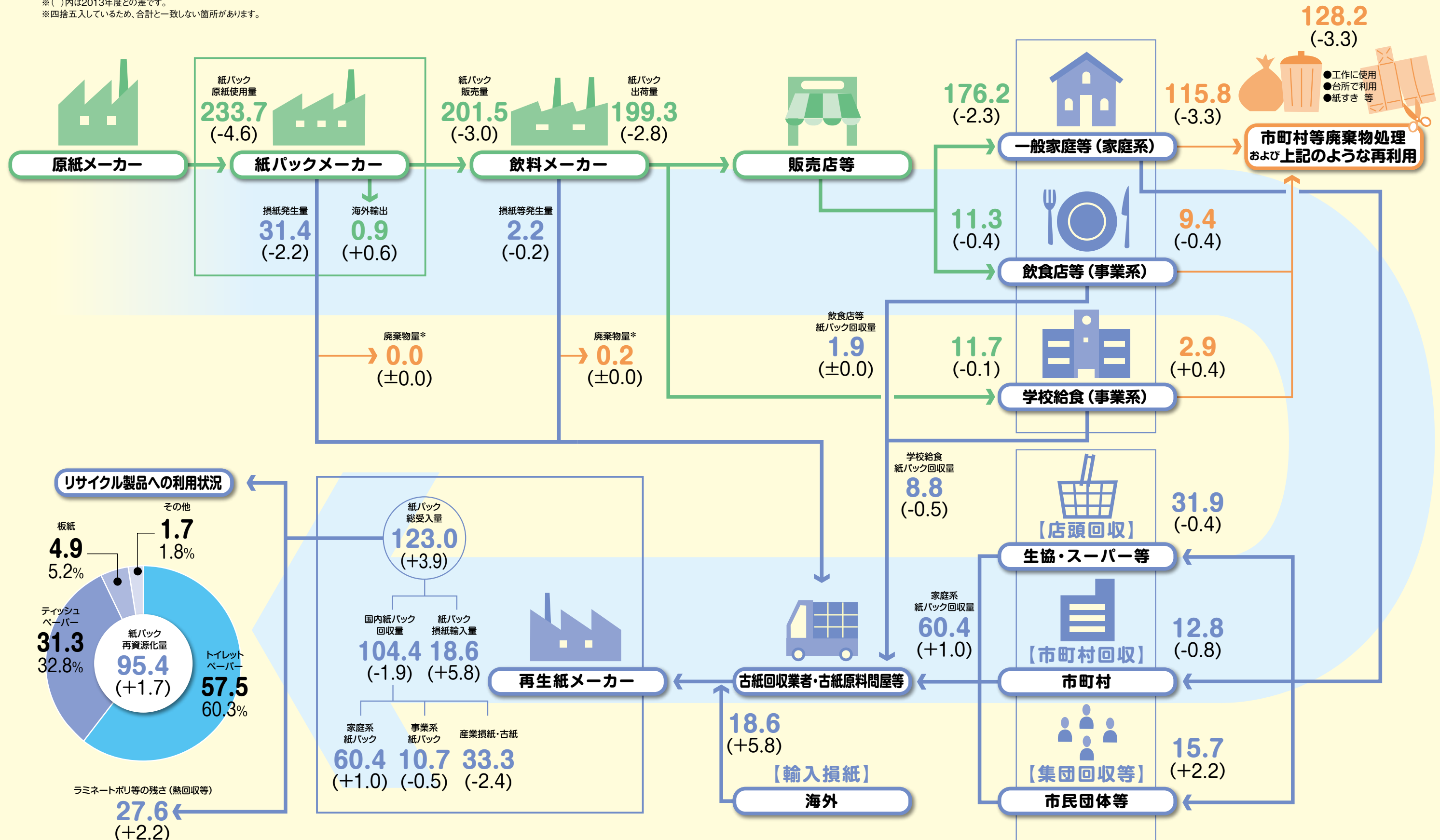


2014年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン

※()内は2013年度との差です。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。